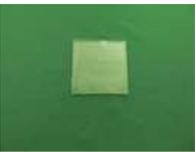
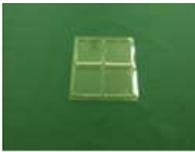


商品テスト結果「家具転倒防止器具の性能」概要

(表1) 各検体の商品表示とテスト結果

検体		A	B	C	D	E	F	G	
タイプ		粘着マット式			ストッパー式		ポール式		
検体写真									
主な表示	耐震性能に関する表示	「耐震」	「震度7相当OK」	「震度7クラスOK」	「転倒防止」、「家具が揺れに強くなる」	「震度7でも食器棚の転倒を防いだ」	「耐震」、「家具の転倒防止」、「地震の被害を最小限に食い止める」	「公的機関の振動試験で転倒防止効果を実証済み」	
	対象家具・耐荷重に関する表示	「大型キャビネットやタンス、液晶モニター、パソコン、サーバーラック等」タンス、テレビのイラスト	家具、テレビ、パソコン、花瓶等のイラスト 「耐荷重 100 kg」	「大型テレビ・家電・家具等に利用できます。」 「耐荷重 100 kg」	タンスの写真	タンスのイラスト	タンスのイラスト	タンスのイラスト及び写真	
テスト結果	震度6強	使用家具	タンス	タンス	タンス	タンス	タンス	食器棚	食器棚
		家具の状況	転倒相当 (30 cm以上の移動)	転倒	転倒	転倒	転倒	転倒	転倒
	震度6弱	使用家具	食器棚			食器棚		食器棚	
		家具の状況	10~30 cm程度の移動			10~30 cm程度の移動		転倒	

タンス (1365 mm × 885 mm × 420 mm ~ 81.32 kg) 食器棚 (1800 mm × 885 mm × 400 mm ~ 100.35 kg) ~ともに素材はMDF (中密度繊維板) 重さは内容物を含む

(表2) 検体を組み合わせた場合のテスト結果

検体		E + G	
検体写真		上部 (検体G)	
		下部 (検体E)	
テスト結果	震度6強	使用家具	食器棚
		家具の状況	10cm以下の移動



検体EとGの組み合わせ使用のテスト後の状況
(下部の検体Eに若干のずれ、上部の検体Gに一部破損はあるが、食器棚は転倒しなかった。)

＜参考＞ 平成23年度 ヒヤリ・ハット調査「非常時(震災時)の危険」より

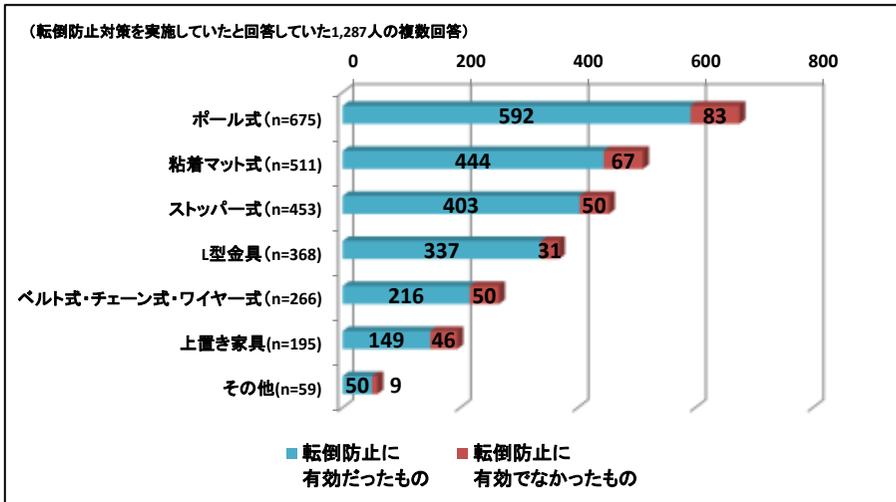


図 使用していた転倒防止器具の種類・有効性

東京都が東日本大震災後の平成23年7月に実施したヒヤリ・ハット調査「非常時(震災時)の危険」によれば、使用している器具は、「ポール式」、「粘着マット式」、「ストッパー式」の順で多く、壁や家具に傷をつけることなく設置できる器具が上位となっている。

転倒防止対策を実施していると回答した都民1,287人うち、8割以上が転倒防止器具は転倒防止に有効だと感じていたが、「効果がなかった。」、「設置していても不安」等、その効果を疑問視する回答も1割以上あった。